

全国学力・学習状況調査(4/19 実施 6・9 学年)について結果が公表されましたので、本校の結果分析と対策についてお知らせいたします。

学年		国語	算数・数学	理科
6年	全国	65.6	63.2	63.3
	県	65.0	62.0	64.0
	本校	67.0	66.0	62.0
9年	全国	69.0	51.4	49.3
	県	70.0	50.0	50.0
	本校	75.0	52.0	51.0

1 6学年の課題と対策

(1) 国語

- 課題のある問題 1 四(本校 41.7% 県 52.2% 国 47.7%)

自分の考えを明確にし、提示された条件を満たした意見文を書く問題

- 課題のある問題 3 一(本校 50.0% 県 57.5% 国 59.2%)

文章全体の構成や書き表し方に着目し、文や文章を整える問題

【分析】

出された3つの条件を2つ、もしくは1つしか満たしていない児童が多い。その中でも最も多かったのが、「話し合いの中で取り上げられていた問題点について、自分で考えた解決方法」が含まれていない、というものだったことから、①必要な条件を十分に把握できていない②引用して書くことはできるが、自分で考えて書くことが難しい、と思われる。

2を選んだ児童は「引用」という言葉の意味を正しく理解していないのではないかとと思われる。また、4を選んだ児童は考えの理由が初めに書かれていないことを捉えられていないと考えられる。

【教科としての対策】

意味調べや国語辞典の活用などを通して語彙を増やす。また、授業内での音読や読書タイムでの読書活動の推進を通して、様々な文章を読むことで言葉の引き出しを増やしていきたい。条件作文に関しては、「どんな目的で」「何を」書けばいいのかを正しく把握するため、〈条件〉に記載されている重要な言葉に線を引かせるなどし、見直したり確認したりする際の手がかりとなるように指導する。また、類似問題や学習の中で出てくる言葉を使った短文作りで文を書く練習を重ね、意見文を書くことに慣れるようにしていく。

また、漢字を習得しても時間が経つと忘れてしまうことがあるため、日常の中で進んで漢字を使えるよう環境を工夫したり、毎時間国語の授業の前にミニテストを取り入れたりしながら漢字が定着するように支援していきたい。

(2) 算数

- 課題のある問題 2 (3) (本校 16.7% 県 21.0% 国 21.4%)

数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかをみる問題

- 課題のある問題 4 (3) (本校 50.0% 県 63.9% 国 66.5%)

辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ問題

【分析】

飲み物全体が半分になったので、単純に果汁も半分になると判断したものと思われる。果汁の「量」と「割合」を混同していること、また「割合」のもつ意味を十分理解していないことが要因である。

ひし形の「4つの辺が等しい」ということは理解できている。ただ、プログラミングにおける回転の角度が、進行方向に対しての大きさになることを捉えきれていない。

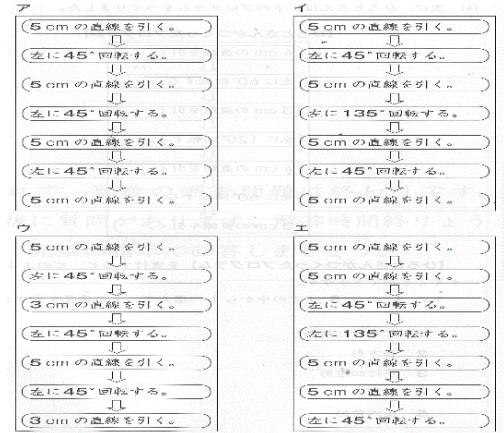
【教科としての対策】

プログラミングに関する問題が新たに出题されたが、端末上で試行錯誤を繰り返し行う過程を、紙面上で行う難しさはあったようである。

事象の本質、例えば図形の領域であれば、各図形の性質を正しく理解していれば、対処できる幅が広がっていたとも考えられる。算数・数学以外でも同様に言えることではあるが、新しい情報に対して、正しい知識・技能をもって対応できるよう、基礎基本の徹底を今後も継続していくことが望まれる。

本テストで全国共通に「割合」についての課題が残った。

例年つまずきが見られる單元ではあるが、日常生活の場面に即して必要感をもって取り組める課題を選択し、「数量が変わっても割合は変わらない」という感覚を体感させることが必要になる。



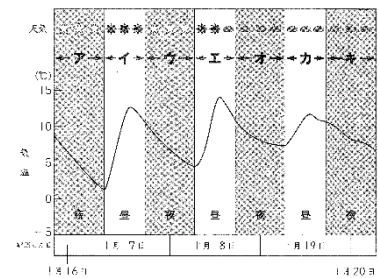
(3) 理科

- 課題のある問題 4(3) (本校 25.0% 県 42.9% 国 45.5%)

観察などで得た結果を複数の視点で分析・解釈する問題

【分析】

条件は「冬の晴れた夜は、気温が下がる。」であるが、晴れているという条件を抜かして気温のグラフの下がっているア、ウ、オ、キを選んでしまったと思われる。



【教科としての対策】

季節による気温の変化の仕方を対象として、冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめについて問うものである。問題の視点で、観察、実験などの結果を分析して、解釈するには、問題を把握し、観察、実験などの結果と、既習の内容や生活経験とを関係付けながら、結果の傾向を捉え、問題に正対した結論を導きだすことが大切である。そのために、観察、実験などの結果を分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるようにするために、問題を把握することや、既習の内容や生活経験を関係付けることができるようにすることで、問題に正対した結論を導きだすことを意識して授業を改善していきたい。

2 9 学年の課題と対策

(1) 国語

- 課題のある問題 2二①(本校 65.4% 県 79.0% 国 82.1%)
②(本校 76.9% 県 78.1% 国 80.5%)

文脈に即して漢字を正しく書くことができるかをみる問題

- 課題のある問題 3一(本校 57.7% 県 53.8% 国 52.4%) ※正答率が低い

使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する問題

【分析】

設問①に関して、「余」や「途」、「餘」と解答している生徒が見られた。また、②に関して、「嬉」と記述している生徒が多く見られた。正確な漢字が覚えられていないことが誤答の原因である。

同じ表現は理解できているが、「比喩」「擬人法」という表現技法の名称や内容を覚えられていない生徒が多い。

【教科としての対策】

全体的に正答率が高く、文章を読む力や書く力が身に付いている。ただし、漢字や表現技法の名称を正確に覚えられていなかったり、引用の仕方を誤って覚えていたり、知識・技能の部分に弱点も見られる。

漢字や表現技法の名称については、教科書の文章や課題に応じて触れるだけでなく、授業初めの5分などを利用した簡単な確認問題などに取り組むようにし、継続した復習の機会を作っていく。

引用に関しては「書くこと」の単元でレポートや意見文を書く際に、条件として引用をすることを課し、引用の適切な方法について学ぶ機会を確保していきたい。

(3) 数学

- 課題のある問題 7 (本校 26.9% 県 41.0% 国 44.0%)

データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題データの傾向を読み取り、それらを基に判断の理由を説明する問題

- 課題のある問題 9(2) (本校 3.8% 県 10.1% 国 12.5%)

筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する問題

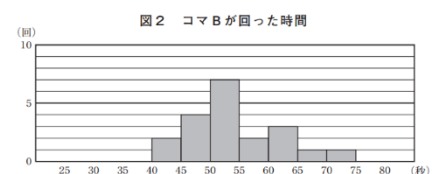
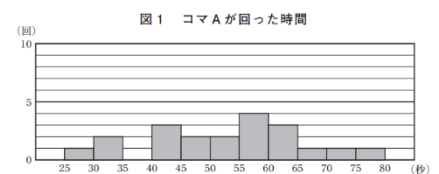
【分析】

誤答の内容をみると、「ちらばり」「範囲」「最大値や最小値」などの特徴を表すキーワードを使用し、2つのヒストグラムの特徴を記述しようとする努力は認められる。しかし、「□秒以上」「□秒未満」などのデータを正確に捉える数値の記述がないもの、曖昧な表現の記述のものが多かった。

誤答を見ると、細かく角の大きさを求めようとするものや途中で途切れているものが多い。文章量の多さと式の混在のため、問題の理解も不十分であると考えられる。

【教科としての対策】

今年度は、全体の正答率が辛うじて全国よりも0.6%上回り、無解答率も全体的に低い結果であった。思考・判断・表現の観点の問題はすべて記述式であり、5問中3問は正答率4.7%~15.4%上回る結果であった。



説明する力が付いてきている中、前半の知識・技能である連立方程式を解くこと、反例の意味を理解しているか選択式で選んだりする問題、領域では図形やデータの活用の問題の正答率も低かった。

基本的な内容（知識・技能）を定着させ、それを活用できる授業工夫が必要である。振り返りを重視した活動の継続と、各学年のどの単元が関連しているか確認して授業での学び直しを行うこと、特徴のある出題の仕方の問題については、積極的に練習問題、発展的な問題として取り入れることを意識して授業計画を考えていきたい。

(3)理科

- 課題のある問題 1(1) (本校 23.1% 県 44.0% 国 44.2%)

日常生活の中で物体が静電気を帯びる現象を選択する問題

- 課題のある問題 3(2) (本校 46.2% 県 59.4% 国 60.2%)

水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について適切なものを選択する問題

【分析】

放電が起こる現象を、静電気を帯びると捉えてしまっている。また、用語の知識と現象を関連付けて理解することができていない。

質量は変化しないことを、粒子の保存性の視点で理解することができていない。

【教科としての対策】

用語の知識と現象を関連付けたり、なぜそのような結果になるのかを理解できていなかったりする実態がある。そのため、学習の前後で身近な現象や化学変化を生徒に提示し、その現象を説明する活動を取り入れることで、用語の知識と現象を関連付けて理解できるようにしたい。また、生徒がより多面的、総合的に理解できるよう、知識及び技能を分野や領域を横断して関連付ける指導を取り入れていきたい。